

| | | | |
|---|--|------|-------|
| 入試年度 | 2025年度入試 | 研究科 | 商学研究科 |
| 課程 | 修士課程 | コース | 商学コース |
| 入試期 | 2期 | 入試方式 | 全入試区分 |
| 研究分野(演習科目名) | 経営学(国際経営論) | | |
| 出題意図及び解答又は解答例 ※試験問題自体を公開しない場合はその理由 | | | |
| 出題問題 | 任意の新興国市場を1つ選び、その国のマクロ経済の状況及びビジネス環境について述べよ。 | | |
| 出題意図 | <p>新興国市場としてインド(他のBRICsの国でも良い)を取り上げ、そのマクロ経済の状況とビジネス環境について概説する。インドは若く豊富な人口と高い経済成長率を背景に、世界で最も魅力的な市場の一つとなっている。</p> | | |
| 解答又は解答例 | <p>本問題は論述式の筆記試験問題であり、解答は一義的でないため、以下に、採点時の基準や観点等を示している。採点にあたっては、以下の点を総合的に評価する。</p> <p>マクロ経済の状況(2025年度の時点で)； インド経済は力強い成長を続けており、国際機関からも高い評価を受けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高い経済成長率：2025年度の国内総生産(GDP;Gross Domestic Product)成長率は、国際通貨基金(IMF;International Monetary Fund)が6.2%、アジア開発銀行(ADB;Asia Development Bank)が6.5%と予測しており、世界的に見ても非常に高い水準である。これは主に堅調な国内需要によって牽引されている。 ・ 人口動態の優位性：インドは世界第2位の人口を擁し、生産年齢人口の割合が増加する「人口ボーナス」期にある。この豊富な労働力と若年層による消費の拡大が、長期的な経済成長の原動力となっている。 ・ インフレと金融政策：インフレ(物価高騰)は国民の大きな懸念材料の一つですが、インド準備銀行(中央銀行)は物価の安定を重視しつつ、経済状況に応じて政策金利を調整している。 ・ 財政赤字：慢性的な財政赤字は課題の一つです。これは、貧困層への補助金支出などが政府の税収を圧迫する構造に起因している。 <p>ビジネス環境 インド政府はビジネス環境の整備に注力しており、外資系企業の誘致を進めている。</p> <p>機会と魅力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 巨大な市場規模：巨大な人口はそのまま巨大な消費市場を意味する。中間層の拡大に伴い、多様な消費者ニーズが存在する。 ・ 政府の経済改革：モディ政権は「Make in India」スローガンの下、製造業の振興、インフラ整備、規制緩和を推進している。EV(電気自動車)普及策など、脱炭素と産業発展を両立させる政策も展開されている。 ・ デジタル化の進展：IT分野はインド経済の成長を支える主要産業の一つであり、デジタル技術を活用した新たなビジネス創出の機会が豊富にある。 <p>課題とリスク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インフラの未整備：道路、港湾、電力などのインフラは未だ十分とは言えず、製造業などのビジネスにとって障害となる可能性がある。 ・ 規制・法制度の複雑さ：インドは連邦共和制国家であり、州ごとに自治権があるため、言語や文化の多様性に加え、法規制や手続きが複雑で地域差が大きい点に注意が必要である。 ・ 雇用創出の課題：IT産業は成長分野ですが、高度な人材に限定されるため、人口のボリュームゾーンを吸収するには製造業などでの大規模な雇用創出が引き続き重要な課題となっている。 <p>総じて、インドは高い成長性と巨大な市場という大きな魅力を持つ一方で、インフラや規制の複雑さといった課題も内包しており、進出には現地市場への深い理解と戦略的なアプローチが求められる。</p> <p style="text-align: right;">上記のもののある程度把握できることを期待する。</p> | | |